

議 長 受付番号第11号、北村和士君の一般質問を許します。登壇願います。

1 番 北 村 議長の許可を頂きましたので質問させていただきます。受付番号第11号、質問議員、第1番 北村和士。件名、松田町の新たな魅力となり得る人材バンクの活用について。

要旨。令和5年9月に松田町人材バンク設置要綱が告示され、1年がたとうとしていきます。人材バンクは住民の居場所、生きがい、新たなコミュニティ、世代間交流の場など、松田町の新たな魅力となる可能性があるかと大いに期待しています。そこで、現状と今後の活用策などについて伺います。

1、人材バンクの実績と活用策について。

2、情報発信の強化について。

よろしく願いいたします。

教 育 長 それでは北村議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

松田町にはですね、福祉、子育て、住民生活など、様々な分野において知識や技術を持っている方がいらっしゃいます。その力をですね、地域のために役立てたいと考えている方が、松田町人材バンクに登録をされていらっしゃいます。その登録分野でございますが、健康、福祉、子育て、学習、スポーツ、芸術・文化、国際交流などですね、多種多様でございます。現在はですね、個人で11名、団体で12団体の方が登録をされております。利用希望者にはですね、つなぐ体制は十分整っておりますし、いつでも活動できる状況にはあります。その活用につきましてはですね、広報や回覧等を通しましてですね、十分に周知をしてきているところでございます。登録いただいた個人やそれぞれ団体はですね、それぞれ活発に活動はされているのではございますが、今現在のところ残念なことにですね、この人材バンク制度というのを通してですね、の申込みはないというのが現状でございます。教育委員会としましてもですね、人材バンク制度は生涯学習の自立の一助になるだけではなくてですね、なることも考えておりますし、今後ですね、生涯学習の分野だけではなくて、学校教育にも活用の機会を広げていきたいというふうに考えております。

2つ目の質問であります情報発信の強化につきましては、御利用ただけて

ない理由の一つがですね、制度の浸透が図られていないということであるというふうに推測をしております。今後はですね、町ホームページやSNSに活動の様子が分かる紹介動画を掲載して発信するなどの工夫をしてですね、さらなる周知を図っていきたいというふうに思っております。

1 番 北 村 ありがとうございます。それでは再質問に入らせていただきたいと思っております。

1点目のですね、人材バンクの実績と活用策について伺います。施行されて1年で、23の方々が登録してくださったことはうれしいことと思っておりますが、活用のお申込みがなかったことについては非常に残念でございます。この人材バンク、私は松田町の新たな魅力になると考えています。現在松田町の魅力については、交通の利便性と豊かな自然というハード面がよく取り上げられますが、環境面で似ている自治体は多数あります。それに松田らしさをプラスするとしたらやはりソフト面、つまり人の部分になるかと思っております。その点で人材バンクの活性化は、これからの松田町を彩る施策としてとても重要です。

例えば、学校で言えば来年度からコミュニティ・スクールが導入されます。コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことで、学校と地域住民などが力を合わせ、子供たちのよりよい環境づくりに取り組む、地域とともにある学校を目指すための仕組みです。これにより、より地域との連携を強化し、学校を地域社会の一部として機能させることで、子供たちの多面的な成長を促進することを目指しています。地域との連携とは、地域の人たちとの連携です。ここで、人材バンクに登録している方との連携が可能であると考えますが、そのような考えや計画はございますでしょうか。よろしくお願いいたします。

教 育 長 それではですね、コミュニティ・スクールに関わる御質問が出ておりますので、私のほうからお答えをさせていただきたいというふうに思っております。まず貴重な御意見を、北村議員、ありがとうございました。議員がおっしゃられたとおりですね、令和7年度に学校運営連携協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールの導入を考えております。先ほどもお話しさせていただきましたようにですね、松田町の人材バンクに登録されている名簿をですね、私も見

させていただきました。本当にですね、様々な特技や技能、技術を持っていらっしゃる方が登録されているなというふうに、私は感想として持ちました。そのような方がですね、学校教育に関わっていただければ、議員がおっしゃられたようにですね、非常に充実した教育環境がつけられるんじゃないかなというふうに私は考えております。

しかしですね、学校が必要としているニーズと、人材バンクに登録されている方々のニーズとが、必ずしもぴったり一致しないというような場合がございます。例えばですね、学校ではこういうような方に来ていただきたいんだけど、そういうような方々が人材バンクに登録されていないと、そんなようなこともあるのかなというふうに思っております。

そのような点をですね、補うためにですね、令和7年度のコミュニティ・スクールの導入に当たりまして、多くの地域の方々に、地域学校協働活動のボランティアに登録していただいて、子供たちの教育に力を貸していただきたいなと、こんなふうに考えております。例えばですね、国語の授業に短歌とか俳句の授業があります。地域の中にはですね、俳句の会とか短歌の会とかいうのをつくっていらっしゃる方がいらっしゃると思うんですね。そのような方々をゲストティーチャーと呼んで国語の授業に入っていただくと。またですね、授業だけではなくても、例えば生け花を得意としている方がいらっしゃいます。その方々に昼休み学校に来ていただいて、一輪挿し教室で子供にやってもらう。あるいは、読書サークルをつくっている方がいらっしゃったらですね、学校に昼休み来ていただいて、読み聞かせやあるいは紙芝居などを子供たちにやっていただく、そんなような活動も考えられるかなというふうに私は考えております。

来年度ですね、コミュニティ・スクールの導入に当たりましてはですね、地域と学校を結ぶスクールコーディネーターの配置を考えております。そのスクールコーディネーターの方々にもですね、先ほど議員おっしゃられたように、人材バンクというのを活用していただいて、少しでも地域と学校を結ぶことをしていきたいと思っておりますし、より一層地域との連携を深めていきたいなと、そ

んなふうに考えています。

- 1 番 北 村 分かりました、ありがとうございます。コミュニティ・スクール導入ですね、突然学校が変わるというわけではないというのは、この前の説明会でも頂きましたけれども、徐々にですね、他分野へ興味を持つ子供の育成の場面になりますように、連携のほどよろしく願いいたします。

またですね、現在小学校の生徒を対象にして、放課後における児童の安全、安心な居場所づくりを推進するとともに、様々な体験活動で子供の可能性を輪を広げること、また子供たちと地域の方が活動を通して、縦の関係性を築き、子供の社会性や協調性を伸ばすことを目的として、放課後子ども教室を松田小学校で言うと、小学校、各小学校、月2回ほど開催されていますが、そちらとの連携についても、そのようにお考えということでしょうか。

- 教 育 課 長 放課後子ども教室との連携というお話かと思えます。放課後子ども教室は、平成29年に社会教育委員の皆様を中心に、まず試験試行という形で始まりまして、その後コロナ禍を乗り越えまして多くのボランティアの方の御協力を得まして、現在は松田小学校で月2回、寄小学校で月1回、それぞれ開催をいたしまして、開催をしております。

その内容といたしましては、体験活動ということでドッジボール、大縄跳び、キックベースなどの体を動かす活動のほか、七夕づくりや百人一首などですね、季節を感じられるような活動など、多種多様な取組を通じて松田の子供たちの居場所の一つとして定着をしているところでございます。

連携という意味ではですね、実は放課後子ども教室に既にボランティアとして御参加を頂いていた方が、今度は人材バンクに登録をさせていただいてるというような、今のところそういった流れとなっております。今後はさらなる連携を図るためにですね、そういったボランティアの方の協力者をつくって、相互で活性化が図れるようにしてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

- 1 番 北 村 分かりました。よろしく願いいたします。

次にですね、学童保育についてもちょっと伺いたいと思います。学童保育は、

保護者などは就労などにより、昼間留守家庭などの児童を最長で朝7時半から8時、放課後から19時まで小学校で預かる事業ですが、これ現在の利用状況を、学年別で全体生徒数との割合も含めて御教示のほどよろしく願いいたします。

子育て健康課長 それではただいまの御質問にお答えいたします。学童保育の今現在の利用状況ということで、学年別で申し上げますと、まず1年生が、松田小学校68名いらっしゃいまして、そのうち学童利用者は41名、全体の割合の60.2%となっております。次に2年生ですが、75名、学童利用者はうち40名の利用者です。割合として53.3%。次に3年生ですが、64名、学童利用者は23名いらっしゃいまして、35.9%となっております。4年生ですが、68名中利用者は17名、割合は25%です。5年生は50名中利用者は5名となっております、割合としては10%。6年生ですが、70名中、学童利用者は1名、利用者の割合としては1.4%という今の利用状況となっております。以上です。

1 番 北 村 ちょっと想定してたよりも多くて、結構びっくりしてます。学年が増えるごとに、学童保育を利用するという方が減るといのは何となく想像はつきます。家の中で一人で置いておいても大丈夫かなというような年代の子になってくると、学童利用から外れていくというような形なのかなと思いました。

日本の人口なんですけど、この10年で2.4%減少しているにもかかわらず、世帯数は6.6%上昇しています。これは世帯規模の縮小、つまり核家族化を意味していると考えられます。また、総務省の労働力調査を見ると、その中でも共働き世帯についてはここ10年で21.8%も上昇しています。つまりここ10年で共働き世帯の核家族が爆発的に増え、かつてはおじいちゃん、おばあちゃんが担っていた子供の居場所がなくなっていると言えるかと思います。また、国の保育料の無償化などは、女性の社会進出支援も目的とした施策です。そのため、この流れは続く、または加速するものと思われま。

そういった中で、放課後から19時までという時間を、長時間を学童保育の指導員さんだけにお願いするのは、なかなか酷ではないかと思います。例えば人材バンクの方々と連携することによって、今日はこの講座と、放課後子ども教室との連携のように、指導員さんの負担を減らしつつ、子供たちに新しい分野

への学びのきっかけをつくることができると思いますが、いかがでしょうか。

子育て健康課長 ただいまの御質問にお答えいたします。現在、学童保育の過ごし方といたしまして、本を読んだり、宿題をしたり、外で遊ぶ時間などもあったり、基本的にはですね、児童一人一人が好きなことをして自由に過ごすことができるようになっております。また、英会話など学びの充実を図り、英語に慣れ親しんでもらうため、ALTを配置した保育も実施しており、こちらのほうも大変好評を頂いているところでございます。支援員については、児童数の人数に応じて配置しておりますけれども、基本的には1クラス40人で支援員の方1人、それから補助員の方1人ということで、基本の保育は2人体制ということで保育に当たっております。議員のおっしゃるようになりますね、人材バンクの方々と連携することによって、学童保育の行事としてですね、この条件に合う方がいらっしゃれば、そういった方々の活動の場が広がったり、学童保育の新たな展開が図れることによってですね、さらに豊かで充実した時間を過ごせて、楽しい学童保育が展開できるようになるかと思えます。いずれにしてもですね、現場の支援員の方々の負担軽減という観点からも、現場の意見をお聞きしながら、よりより学童保育を実施していくために、人材バンクの活用についても教育委員会と連携してですね、検討してまいりたいと考えております。以上です。

1 番 北 村 分かりました。私もですね、事業をしていますので、民間の視点から見るとですね、毎日数十人の子供が集まる場所で、自分の活動をPRできるっていうのはね、やっぱりすばらしい場所なんですよね。そういったところでもウィン・ウインの関係になり得ると思えます。ぜひですね、人材バンクに登録していただいている方というのは前向きな方々ですので、情報共有ですね、積極的なコミュニケーションの場を持って、民間活力を導入いただきますようお願いいたします。

人材バンクはですね、松田町の新たな人材発掘、育成ができる施策だと思っています。例えば、会員が減少してきている既存団体を補完するような、新しいコミュニティとしての活動や、また別角度で言うと、農業経験者が登録し、その方を中心に農業に興味がある方を集めて自家消費の農業活動のコミュニテ

イー等ができれば、町内ですね、先ほど古谷議員もおっしゃってられましたけれども、農業生産者の減少とか、そういったところの解決ですね、一助にもなるのではないかと思います。そのようにですね、人材バンクの活用によって、可能性は無限です。そういうソフト面で、松田町の新たな魅力になる人材バンクですが、今後どのように活用したいと、今、教育の場も離れてですけども、どのように活用していきたいとお考えでしょうか。お願いします。

教 育 課 長 議員おっしゃるとおりですね、人材バンクに、その人材発掘機能というものを果たせることができればですね、より効率的に、生涯学習の活性化という成果が上げられるのかなというふうに考えております。人材バンクというものは目的ではなくて、生涯学習の理念でもある豊かな人生を送るためのツールの一つであるという、機能の一つというかツールの一つであるというふうに捉えております。先ほど教育長答弁にもございました、学校教育の場、また放課後子ども教室、学童保育の場に限らずですね、議員おっしゃるように、その農業であろうと福祉であろうと、個々人がですね、町民の方個々人が、豊かな人生というか、そういったものを手に入れることができればよいわけで、他課とも連携をしてですね、可能性を広げてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

1 番 北 村 分かりました。ぜひとも、さらに力を入れていただければと思います。

それでは、2点目のですね、情報発信の強化について伺います。1点目の質問で取り上げた多種多様な活動を人材バンクで行っていただくためには、ちょっと現在の登録者よりもですね、多くの方々に登録していただけることと、人材バンクの認知度を上げる必要があると思いますが、その点についてはどのようにお考えでしょうか。よろしく願いいたします。

教 育 課 長 そうですね、町民の方にですね、御活用いただける、また、町民の方が生涯学習のためにですね、寄与していただくためには、やはりその認知度を上げるというのは本当大切なことだと思います。制度を活性化させるためにはですね、一人一人、一人でも多くの方にですね、前向きに御参加いただくことが大切だというふうに捉えております。そのためには、町の広報、今現在行っておりま

すけれども、今後、ホームページ、あと、SNSの活用というものが、やはり大切であるというふうに考えております。

1 番 北 村 ありがとうございます。広報でのPRはやっぱり積極的に行っていただければと思います。例えば、広報にですね、登録いただいた方の活動を紹介するような枠を設けることによって、人材バンクを知ってもらい、そして登録していただいた方々としては、活動をPRすることができると思います。人材バンクに登録していただいている方々とのウィン・ウインの関係を構築することにより、活性化し持続可能な制度になるかと考えますので、その点を念頭に進めていただければと思います。

「広報まつだ」はですね、今年度から、一部で配布主体が自治会から変わったことで、配布数が増えて発信力が増しているかと思います。ただ、ページ数やですね、配布頻度には限界があるかと思います。そこで、SNSでの情報発信を活用する必要があると思いますが、そのように答弁を…答弁というかね、回答を頂きました。松田町…SNSでの情報発信については行っていただくという旨で回答頂きましたので、よろしく願いいたします。

松田町全般の話ですけれども、財政規模がですね、同様の自治体に比べて、かなり住民サービスは充実していると思います。例えば、6月議会でも回答頂きましたが、本町の子育て支援事業は、兵庫県明石市や、2019年に合計特殊出生率で2.95となった岡山県奈義町の取り組みとさほど変わりなく、むしろ本町のほうが充実しているところもあります。しかし、現状は理想にほど遠い状況であり、原因はPR不足なんだよと回答頂きました。すばらしい施策でも、PR不足でやっぱり効果を発揮できません。そこで発信力強化のために、松田町のSNSを使った情報発信媒体についても伺いたいと思います。現在、松田町では、LINE、X、旧ツイッターですね、インスタグラム、マチイロの4つがありますが、それぞれの棲す分けについては、どうお考えでしょうか。お願いいたします。

参事兼政策推進課長 御質問ありがとうございます。松田町ではですね、今、LINEとX、インスタグラム、マチイロという形で進めております。そして、また町の広報紙と

いうところになります。総合計画に位置づけている情報発信の共有というのが
ございます。そこで、まず広報については、手に取りたい、見たいというよう
な広報の作成に努めるというようなこともございます。特にですね、このL I
NEについては多くの方が今、登録していただいているところでございます。
主にですね、町としては2,500人超ですね、2,520人、昨日現在では2,520人が登
録をいただいているところでございます。また、インスタグラムにつきま
してもですね、多くの方に発信をしている状況もございまして、すみ分けとい
うことなんですけども、やっぱり多くのいろんなニーズがありますので、基本
はですね、早く伝えるという意味では、L I N Eを中心に今、進めているとこ
ろでございます。併せて、様々な方にも届ける形でツイッター、インスタグラ
ムの活用をしているというところでございますので、引き続きですね、目的が
ですね、様々な方、町民をはじめ町外の方をはじめ、多くの方に情報発信をす
るということが目的なので、様々な機能を使ってですね、発信に努めていき
たいというふうには考えております。以上です。

1 番 北 村 分かりました、ありがとうございます。各アプリの日本でのユーザー数を調
べると、L I N Eは9,200万人、Xが4,500万人、インスタグラムが3,600万人、
ちょっとマチイロは不明です。そうすると、やはり政策推進課長がおっしゃら
れたように、L I N E、ほとんど9,200万人っていうと、スマートフォン持って
いる人が全員使ってると言ってもいいぐらいのアカウント数になりますので、
そちらを中心に広げていくのがよろしいのかなと思います。現在、2,520人です
か、のお友達がついていうのは、発信先がいるかと思うんですけども、公式L
I N Eの友達数を増やすことは、松田町としての発信力強化のためにつながる
と思いますが、その点については、そういうお考えでよろしいでしょうか。

参事兼政策推進課長 御質問ありがとうございます。そのとおりだというふうに、私も理解をして
おります。先ほどのですね、マチイロについては、今、マチイロで町広報紙を
見に行っている登録者が854人いますので、町だけなんですけどもね、そういう
形で情報を共有したいと思います。先ほどのとおりですね、多くの方に松田町
の様々な情報を発信することが目的、そして今言ったL I N Eでの発信はもと

より、中心にですね、今、進めているところがございます。この、引き続きですね、発信強化に取り組んでいくためにもですね、あらゆる発信と活用を図り、まず登録者へのメリットを増やすこと、ともに、今、LINEではですね、町のイベントの情報や事業の情報、広報紙をそのままじかに伝えるっていう形と災害情報をですね、常に発信をしているところがございます。町民の方にはですね、町民税等の納期限とかも発信をし、様々町の今やっている補助金のメニューもですね、定期的に発信をするということで、より町民をはじめですね、多くの方に伝える情報発信に、町としても引き続き取り組んでいきたいというふうには考えております。以上です。

- 1 番 北 村 分かりました、引き続きよろしくお願いたします。LINEはですね、友達登録時に興味のある情報フラグをつけて登録してもらうことによって、町民や町外者に分けて情報登録ができることもメリットの一つです。人口に比べて公式LINEアカウントの友達数が多い自治体として島根県の海士町があります。人口2,273人に対して、友達数が6,388人で人口の約2.8倍。その結果、最新データの2022年までの直近3年間は社会増と、人口社会増となっております。海士町で有名なですね、施策の一つとしては、企業や自治体、大学などの島外からの研修ツアーです。これにより交流人口を増やして関係人口に昇華して移住に結びつけるという戦略です。交流人口は言ってみれば一見さん。関係人口は常連さんというイメージです。これを松田町に置き換えると、交流人口としては年間10万人ほどが訪れる桜まつり、年間2万人ほどが訪れるロウバイまつりがあり、交流人口、一見さんの交流人口は充実しているように思えますが、これを関係人口に昇華するという作業としては、ちょっと足りないかなと思います。交流人口を関係人口に昇華するためには、松田町に興味を持っていただけるような情報を提供し続ける必要があるかと思います。そこで有効なのが公式LINEアカウントの友達になってもらうことです。具体的に言えば、桜まつりやロウバイまつりのチラシにですね、咲き具合を更新、公式LINEアカウントで発信するみたいな旨を掲載してですね、登録者数を増やしたらいかがだと思いますが、いかがでしょうか。

参事兼政策推進課長 御質問ありがとうございます。そのとおりだと思います。町としてもですね、まず友達を増やす、そして今回ですね、桜まつりでの公式LINEにて、クーポンの画面をですね、ポストカードを提示していただくことで特典が得られるように取り組んだという経緯もございます。またですね、町としては、のーと足柄の利用の予約につきましても、この公式LINEから行えるようにしております。そして、様々な情報発信も、このツールからですね、しておりますので、引き続きこのLINEを通じて、町民が見てもらおうきっかけづくりとして、先ほどのポイントとかクーポンとか、そういうものに努めていきたいというふうに考えて、そのためにはですね、町の様々な団体、そして商工振興会とかも連携しながらですね、その辺の制度設計をしていきたいなというふうには考えております。以上です。

1 番 北 村 分かりました。私がですね、仕事で情報発信をしていた際は、大体、少なくともやっぱり1日1メール、時間を決めて行っておりました。毎日定時にですね、情報を発信することによって、読者の生活にですね、メールを読む、LINEを読むですかね、メッセージを読むですかね、を読むということを習慣づけてもらうのが狙いでした。なかなか、1日1通っていうと、なかなか難しいところもあると思うんですけども、やっぱり、でも少なくとも週1回程度の発行は考えていただければと思います。

発信する情報の内容としては、先ほどにもつながりますけれども、季節の花情報とか、人材バンクの活動などですね、住民に焦点を当てたもの、町政に興味を持つきっかけとなるものなど、松田町の楽しみ方を提供することが大切かと思います。その情報は町民にとっては松田町で楽しく過ごしてもらい、町外の方にとっては交流人口から関係人口に、そしてタイミングによっては移住先として認識してもらおうようになるかと思います。松田町は頑張ってます。しかし、どんなに頑張っても、頑張って施策をつくっても、知ってもらえないと活用されません。活用されないと改善点も見いだせません。今回の定例会でも、効果が出ない原因はPR不足ですとの回答が幾つかあったかと思います。せっかく頑張っているのに本当にもったいないなって思ってます。また、知ってる

情報がですね、松田町と町民とですね、格差があると、松田町の現状を認識する上でずれが生じて、必要のないあつれきが生まれることにもなり得ます。そういった観点からも、今後は情報発信をより強化した体制に編成していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

参事兼政策推進課長　今の御質問にお答えをさせていただきます。組織体制というところだと思います。まず情報発信の強化につなげるためにですね、町もですね、非常に大切なところと考えておりですね、職員一人一人が町の広報マンということで、今、庁内横断的にですね、組織を編成している情報発信推進委員会というのがございます。これは令和元年12月に設置したものでございます。ここはですね、若手職員が中心になって組織をしております。この委員会におきましては、情報発信の強化に向けた議論を深めてですね、町民をはじめ、町外の方にも、町の魅力はもとより、様々な課題に対応した対策についてもですね、連携して取り組んでいけるような情報発信の仕組みを、定期的に打ち合わせを持ちながら進めているというところもございますので、こうしたところも踏まえてですね、また今後はですね、やっぱり民間のノウハウというのもございます。こういうところでですね、民間のプロの方とか、そういった方を招待しながらですね、いろんな情報発信に努めていきたいというふうには考えております。以上です。

1 番 北 村　分かりました。若手の方々に情報発信推進委員会ってつくられているんですね。ぜひ、一緒にやりたいぐらいの。ありがとうございます。町民から頂いた税金、使うなら情報発信よりもいいものをつくるために使いたいという志は最も大切だとは思いますが、知らないと使ってもらうこともできません。知ってもらって使ってもらえば改善点も抽出できます。そして、それを一步一步改善することが、今後の松田町をつくっていくことになるかと思います。私も情報発信については仕事でやってきた経験がありますので、協力させていただきます。今後ともよろしく願いいたします。

最後に、全て含めて、町長、何かございましたら御意見頂けたら幸いです。よろしく願いいたします。

町 長　最後は質問がちょっと幅が広がったんで、私が戻す形になりますけども、

いろんなことに知ってもらいながら、やっぱり人材バンクの話に戻しますが、でもね、人材バンク的には、町内の方々じゃなくて、こういった松田町だから協力したいという方がとにかく町外にいらっしゃってもいいわけだと思います。なので、町外の方々も、我々の人材バンクに登録していただいて、何ですかね、直接そこには松田町には住めないけども、いろんな理由があつて住めないけども、松田町を応援したいんだという方々を増やすためにも、北村議員がおっしゃられるような格好で、情報発信をね、して届けていかなきゃいけないというふうに考えてます。

その中で、これもPR不足っていうふうなことになってしまうんですけども、デジタルで、今現在は、政策推進が担当してるんですけどもね、デジタルの中で、私、こんなことができます、ここはこういった課題がありますっていう、そういうマッチングサイトが、実はもう去年からやっているんですね。それにしても、それもなかなか今、稼働してないということなんで、私はもうやめちまえて言ってるんですよ。お金がもったいないので、その程度だと。なので、やっぱり費用効果が出てこないことを、ずっとこうね、やってしまってもしょうがないので、もっと私自身も、各担当課にですね、PR不足、PR不足っていうことじゃなくて、ハツパをかけて、やってる以上は形になるように、旗振ってまいりたいというふうに考えてます。ぜひとも、そういった点ではですね、御指導頂ければと思います。よろしくお願いします。以上です。

1 番 北 村 分かりました。ありがとうございます。僕もできるところはですね、一緒になってやっていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

これで、私の一般質問を終了させていただきますが、最後に一言お礼を申し上げます。8月9日のですね、震度5弱の地震からの2個の台風対応とですね、8月は本当にお疲れさまでございました。特に、8月9日の地震では金曜の夜の緊急参集、そして対応と、本当に頭が下がります。私も翌10日にですね、地震の影響を見て、町内自転車で回りましたが、町内からはですね、少しの断水ぐらいでよかったっていう声が、もうたくさん聞こえました。これ少しの断水で済んだのは、本当に皆さんのおかげだと思ってます。何不自由な

くですね、普通に生活できるの裏っ側に皆さんの御尽力があるっていうことは重々理解をしてですね、今後ともよろしく申し上げます。ただ、暑い中で緊急でってやらなきゃいけないことも、もちろんありますので、お体のほうをですね、十分御自愛頂いて、松田町のために、今後ともよろしく願いいたします。以上で一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

議

長 以上で受付番号第11号、北村和士君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。休憩中に昼食を取ってください。午後1時ちょうどから議会全員協議会を開催いたします。その終了後に、また本会議を再開いたします。
(11時10分)